

## 〔学 会〕

## 東京女子医科大学学会第 98 回例会抄録

日時 昭和 35 年 1 月 29 日 (金) 午後 1 時半

場所 東京女子医大臨床講堂

## 1. 鼠癩菌接種による結核免疫について

(細菌) 落合章雄

著者は鼠癩菌を Olive 油及び Paraffin 油に浮遊せしめてワクチンを作り、又食塩水に浮遊せしめ加熱してワクチンを作り、これらをマウスに接種免疫し、2 週後にこれらマウスに人型結核菌及び牛型結核菌で攻撃し、次のような成績を得た。免疫マウスを人型菌で攻撃した後の平均体重は攻撃後 3 週まで Olive 油ワクチン群のもの最も重く、Paraffin ワクチン及び加熱ワクチン群のものこれに次ぎ、攻撃後 6 週においては加熱、流動パラフィン、オリーブ油ワクチン群の順となつた。牛型菌で攻撃した場合には各群とも大体上昇カーブを示し、対照群のみやや下降し 5 週から上昇した。剖検成績は人型菌で攻撃し 3 週目に剖検した場合には各群間の差は認められなかつたが、6 週後には生存マウス数から見て Olive 油、Paraffin 油ワクチン免疫群が勝つていた。牛型菌で攻撃した場合には攻撃後 3 週において Olive 油ワクチン群の成績が最もよく、攻撃後 6 週においては Paraffin 群の成績が最も良好であつた。

## 2. 本邦悪性新生物死亡率に及ぼす

## 諸要約の統計学的考察

(衛生) 泉文雄

本邦における悪性新生物訂正死亡率に及ぼす自然及び社会的要因の影響について、部分相関法を用いて検討した。これを要約すれば、(I) 平均気温。零次では、 $r_{12} = -0.016 \pm 0.149$  で、ほとんど相関はない。諸要約を全部同時に一定にすると、 $r_{12.3458} = +0.007 \pm 0.156$  でやはり相関はない。すなわち、平均気温は、悪性新生物死亡率に影響を与える因子ではないといふ。

(II) 人口の都市集中度。零次では、 $r_{13} = +0.292 \pm 0.149$  で有意ではない。諸要約を全部同時に一定にすると、 $r_{13.2458} = +0.017 \pm 0.156$  でほとんど相関はない。すなわち、人口の諸都市集中度も、悪性新生物死亡率に影響を与える因子ではないといふ。

(III) 一世帯平均人員。零次では、 $r_{14} = +0.191 \pm 0.149$  で有意ではない。諸要約を全部同時に一定にすると、 $r_{14.2358} = +0.427 \pm 0.156$  で有意の順相関である。すなわち、一世帯平均人員の多いほど、悪性新生物

物死亡率は高いといふ。

(IV) 富の分布。零次では、 $r_{15} = +0.355 \pm 0.149$  で有意の順相関である。諸要約を全部同時に一定にすると、 $r_{15.2346} = +0.274 \pm 0.156$  で有意ではない。すなわち、富の分布は影響を与える因子ではない。

(V) 工業化指数。零次では、 $r_{16} = +0.388 \pm 0.149$  で有意の順相関である。諸要約を全部同時に一定にすると、 $r_{16.2345} = +0.012 \pm 0.156$  でほとんど相関はない。すなわち、工業化指数は影響を与える因子ではない。

以上により、悪性新生物死亡率に対しては、一世帯平均人員のみが影響する因子であり、他の因子は影響を与える因子とはなっていない。零次において富の分布、工業化指数が有意にみえたのは、他の因子の介在による二次的なものである。

## 3. 感覚器にみられた二、三薬物の

## 適刺激との加重作用について

(菊地生理) ○菊地 録二・内藤 恵一  
皆川 幸子

甲殻類側眼の単一個眼の細胞内より誘導した活動電位に対するアセチルコリン、ストリキニン、DNP の効果をしらべ、次の結果を得た。

(1) アセチルコリンによつて光照射による緩電位の不可逆的増大及び延長がみられた。細胞は比較的短時間内に脱分極をうけて不活性となつた。用量は標本により大分異つたが最低量は  $1 \times 10^{-5} M$  であり、ストリキニン、DNP にくらべ効果は現われにくかつた。

(2) ストリキニン、DNP によりアセチルコリンと同様の効果が得られたが、正常リンゲル液により可逆的にもとにもどつた。DNP により静止電位の僅かな増大がみられ Büllbring の平滑筋に対する作用と類似していた。又ストリキニンにより grouped discharge が誘発された。

(3) 以上 3 薬物は適刺激に対して加重作用をあらわす点で一致していたが、それぞれの作用機序は異つていと考えられる。

## 4. 皮膚色素異常症と Photodynamic Action

(皮膚科) 中村 敏郎

皮膚の melanin 色素の形成に太陽光線が関係することはいうまでもないが、殊にその作用を増強する